

**「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく
利根川上流域の減災に係る自治体の取組事例
【マッチング事例紹介】**

令和2年5月28日

利根川上流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

目次

No	取組番号	取組名	発信自治体名	記載頁
①	33	まちなか洪水ハザードシール	熊谷市	2
②	45	タイムラインに基づく実践的な訓練の実施	野木町	3
③	20	要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る講習会の開催	行田市	6
④	20	要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援 (坂東市他)	茨城県	7
⑤	33	平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組	板倉町	8
⑥	26	広域避難輸送等に関する災害協定 (県バス協会県西支部)	境町	9
⑦	—	台風19号を受けての災害対応検証会議	古河市	10
⑧	—	令和元年台風第19号における水防活動 (群馬県明和消防団・令和元年10月12日～13日)	明和町	11

<目的>

日頃から地域のリスクを意識してもらい、地域住民が速やかな避難行動をとれるよう作成・設置。

<市内約240箇所に設置>

各地域の防災行政無線に「洪水時の最大浸水深」シールを貼付しました。



<目につきやすい高さに>

無線機器ボックスまたは無線柱のうち、目につきやすい場所・高さに表示しています。

<QRコードを使って>

その場で国土交通省HP「重ねるハザードマップ」をスマートフォンで確認できるようQRコードを掲載しています。



想定最大規模の浸水深を表示



耐水・耐光シールを使用

■タイムラインに基づく実践的な訓練の実施

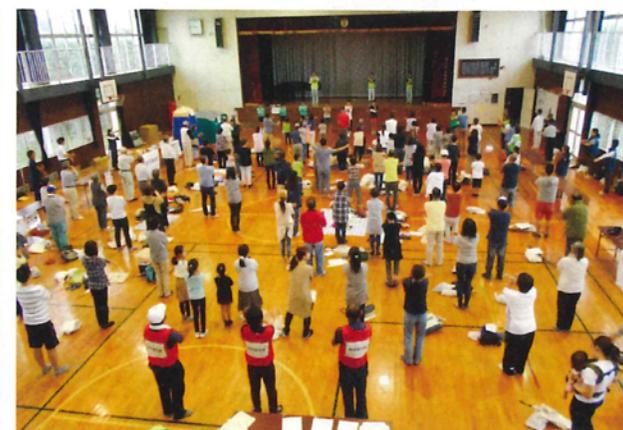
台風による豪雨災害を想定した「全町避難訓練」が、町内7箇所の避難所など町内全域で行われ、関係者を含め約3,700名の町民の方が参加されました。

8:31 警戒レベル3
避難準備・高齢者等避難開始

9:00 警戒レベル4
避難勧告

9:30 警戒レベル4
避難指示

▲上記スケジュールで緊急速報メールや防災行政無線、町ホームページ等を通して情報が発信されました。



町内全域に甚大な被害が発生すると想定し、本部長（真瀬町長）より避難情報が発令され、多くの方にご参加いただきました。

地元役員の方にもご協力いただき、避難者カード・アンケート等をご記入いただきました。各避難所では備蓄品の展示・説明コーナー、ダンボールベッドの組み立て体験や、保健師によるエコノミークラス症候群予防体操が行われました。

■タイムラインに基づく実践的な訓練の実施

野木町



▲防災士の方に災害時の情報取得の仕方や地域の協力等について講話いただきました。



▲野木中学校では水道災害を想定した給水訓練、町体育センターでは野木町建設業協同組合による倒木除去・大型土のう積み上げ訓練も行われました。



他にも社会福祉法人延寿会、社会福祉法人パステルのご協力による要配慮者の受入訓練や、民生委員・児童委員、見守りネットワーク協力員による要配慮者への声掛け訓練も行っていました。

◇山崎製パン(株)様より「ランチパック」を3,500個、関東フーズサービス(株)様より飲料水500mlペットボトルを312本、ご厚意により無償でご提供いただきました。ありがとうございました。

■タイムラインに基づく実践的な訓練の実施

第2回全町避難訓練アンケート集計結果

◆避難者数3349名

◆アンケート回収枚数1,285枚（回収率38.4%*）

*注：1枚に複数名分回答された分を含むため参考

【1】ご回答いただいた方

(1) 年代

10代	37名
20代	14名
30代	102名
40代	164名
50代	197名
60代	423名
70代	386名
80代以上	76名

(2) 性別

男	729名
女	634名

(3) 避難訓練実施を何で知りましたか？

1. 区・自治会からのお知らせ	806名
2. 広報のぎ	556名
3. チラシ	170名
4. 防災無線	60名
5. 町ホームページ	34名
6. 広報車	24名
7. その他(友人・学校・民生委員等)	33名

【2】避難方法

(1) 避難手段

1. 徒歩	1,170名
2. 自転車	50名
3. 自家用車	87名
4. その他(バイク・隣人の車等)	10名

(2) どなたと

1. 一人で	492名
2. 家族と	431名
3. 近所の方々と	367名
4. その他(民生委員・見守り協力員等)	27名

【3】今回の全町避難訓練について

【良かったところ】

- 避難意識が高まったこと
- 配布物、防災士講話等から情報を得られたこと
- 避難体験できたこと



【自分で反省するところ】

- 避難時の準備ができていなかった
- 防災意識が低かった
- グッズや食料等の備蓄をしておくべきだった

【町に要望する点】

- 防災無線が聞こえない
- 屋外スピーカーの設置数を増やしてほしい
- 避難所が狭い、混雑している、指示が聞こえない
- 様々な状況を想定し、定期的の実施してほしい

【4】避難訓練の開催希望時期について

春	141名	夏	34名
秋	1,026名	冬	34名

【5】日常の防災対策について

水・食料等を備蓄している	806名
備蓄していない	556名

◇避難所運営訓練でのご意見

- ・避難所に非常用電源が必要。
- ・医務室や授乳室、更衣室等の確保が必要である。
- ・災害ダイヤルの案内があると良い。
- ・自治会長は年ごとに変わるため、マニュアルや引き継いでいくシステムがあると良い。

●講習会の様子

- 主催：行田市
- 協力：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、
気象庁熊谷地方気象台、埼玉県
- 参加者：51施設56名（対象82施設）
- 開催日：令和元年11月13日（水）13:30～16:00

●概要

- ・利根川上流河川事務所と熊谷地方気象台による講演を行い、計画の必要性や気象情報の活用について理解を深めた。
- ・市の防災担当者から、国の手引きや様式に沿って説明を行い、自らの施設について考えてもらうワークを行った。
- ・台風19号の後に開催したこともあり、非常に熱心で関心の高い講習会であった。

●取組の工夫点

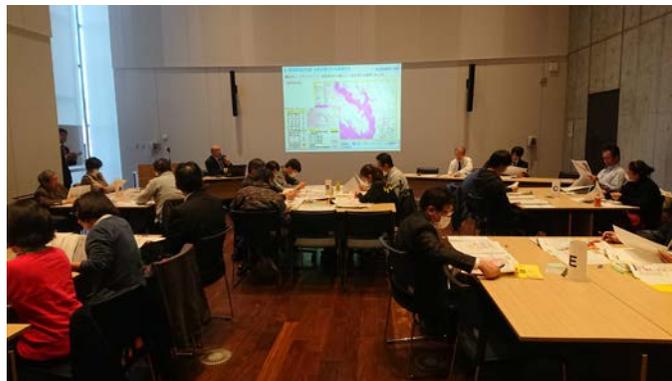
- ・出席する施設に、事前に国が公表した手引きや様式集等を冊子にして郵送し、当日の進行をスムーズにした。
- ・当日のワークに当たり、グループ分けを同業種ごとにした。
- ・施設ごとに、洪水ハザードマップに施設を落とし込んだものを作成し開催通知に同封するとともに、当日も配付した。



■ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援

【令和元年度に実施した内容】

- 1 市町村へ要配慮者施設の確認及び地域防災計画への位置付けを依頼し、対象施設の取組状況を取りまとめた。
- 2 市町村、河川事務所、気象庁と連携し、「要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る講習会」を開催した。



坂東市における要配慮者
利用施設の避難確保計画
作成に係る講習会

対象市町村	実施日	支援機関
土浦市	令和元年10月25日	霞ヶ浦河川事務所, 水戸地方気象台, 茨城県
常陸太田市	令和元年11月19日	常陸河川国道事務所, 水戸地方気象台, 茨城県
坂東市	令和2年1月21日	利根川上流河川事務所, 水戸地方気象台, 茨城県
ひたちなか市, 大洗町, 東海村	令和2年1月31日	常陸河川国道事務所, 水戸地方気象台, 茨城県
常陸太田市, 那珂市, 城里町	令和2年2月4日	常陸河川国道事務所, 水戸地方気象台, 茨城県
筑西市	令和2年2月14日	下館河川事務所, 水戸地方気象台, 茨城県

※講習会を開催した市町のうち、土浦市、常陸太田市では、避難確保計画に基づく避難訓練を支援。

- 3 県内外の先進市町村、施設管理者の優良事例の紹介を行った。



わたしたちの板倉町

3

学校にはどんな施設がありますか。また、どんな目的で設置されているのでしょうか。使い方も調べてみましょう。

防災倉庫 太陽光発電パネル (非常用電源)
備蓄品一覧 非常用コンセント



8, 9, 10

防災体験ができる施設に行こう。

災害減地区内4防災ステーション



★防災ステーションの目的は何かな。

★どこにあるのかな。なぜその場所にあるのかな。



会の川原センター



コンクリートブロック



災害センター

16

11, 12

今までに学習したことを使って、マイ・タイムラインを作ってみましょう。
台風による水害に対する防災行動として、「いつ」「誰が」「何を」準備すればよいのか、ということを考えてみましょう。

★マイ・タイムラインって何に使うのかな。

■タイムラインとは

防災行動の「何を」「何を」「誰が」が明確になります。

○何をやるか ○いつやるか ○誰がやるか

3日 5時 10時 15時 18時



18

○具体的取組： 小学校における防災教育への取組

○実施概要

町内小学校の3年生と4年生が使用する社会科副読本の小学4年生の学習内容に、防災教育に関する項目「自然災害からくらしを守る」の追加を行った。

利根川上流河川事務所と町教育委員会が連携し、平成30年度から社会科副読本の改訂作業に着手した。

利根川上流河川事務所から写真や図表などの提供や年間計画の作成支援を受け、令和2年度から防災教育学習指導計画を作成し、社会科副読本「わたしたちの板倉町（十一訂版）」を用いて授業を実施する。

スケジュール

平成30年度

副読本改訂 着手

- ・ 情報交換
- ・ 使用資料の選定

令和元年度

学習指導計画の作成及び副読本改訂作業

- ・ 学習指導計画及び改訂内容の検討
- ・ 編成会議の開催

令和2年度

新たな副読本を使った授業

- ・ 年間計画に組み込んだ防災教育の実施

【事業の概要】

時期：令和元年10月3日

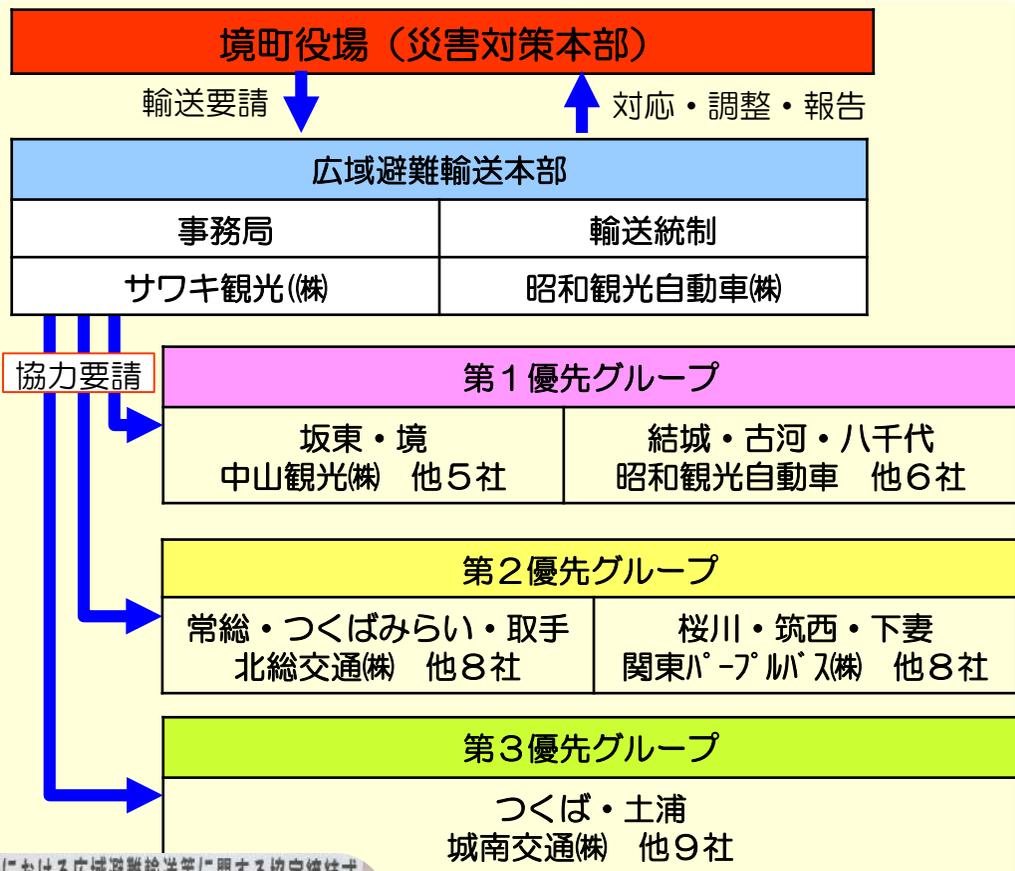
1 目的

広域避難先への移動手段を持たない町民約2,300名（平成29年住民アンケート結果）を避難させるための輸送手段を確保して災害発生時の「人的被害ゼロ」を図るため（一社）茨城県バス協会貸切委員会県西支部（以下「バス協会県西支部」という。）と「大規模災害時における広域避難輸送等に関する協定」を締結

2 バス協会県西支部を協定締結先とした理由

- (1) 各会員の事業所が地理的に近距離で、災害時（予想される場合）等に迅速な配車可能
- (2) 配車のための調整先が1か所で手続きが迅速・簡明
- (3) 各会員と避難場所や避難経路を予め共有することで避難輸送に速やかに着手可能

【バス協会県西支部の広域避難輸送体制】



台風19号で避難輸送バスターミナルから出発する県西支部車両



広域避難輸送等に関する協定締結式

○目的

台風19号での災害対応や事象を振り返り、顕在化した課題等について、改善策等の検証会議を実施した。台風19号での経験をふまえて災害への体制の見直しを図り、今後へと生かしていく。

○主な議題・決定事項

- ・ 市民への情報発信の強化を図る
- ・ 避難所の見直し及び機能向上
（要配慮者やペット同行者の対応等）
- ・ 避難場所の指定を廃止する。
命の危険がある切迫した状況で逃げ込む場所として位置づけ「さいごの逃げ込み施設」と設定する。
- ・ 災害対策本部体制の強化を図る。



令和元年台風第19号における水防活動 (群馬県明和消防団・令和元年10月12日～13日)

明和町

○概要

明和消防団は、令和元年10月12日からの台風第19号の影響に伴う集中豪雨に際し、2日間にわたり、延べ108名が出動。雨が降り続く状況下、昼夜にわたり河川巡視を行った。警戒していた消防団により、堤防から水が流れているという通報あり。しぼり水か漏水かは判断出来なかったため、念のため月の輪工法を実施した。その他、避難指示発令に伴う住民への避難広報を行った。

活動時間	出動延人数	主な活動内容
10/12～10/13 約18時間00分	108名	<ul style="list-style-type: none"> ・河川巡視 ・月の輪工法 ・避難広報



土嚢搬送状況



土嚢搬送状況



月の輪工法完成



月の輪工法完成

